

第2次牧之原市立図書館基本計画（案）パブリックコメント 意見・回答

提出者 No.	意見 No.	項目	意見	回答
1	1	蔵書	1.15ページに記載の弱み（課題となる点）を克服すること。安定した資料費の確保と、将来を見据えた蔵書計画が見えない。	図書館の拡充において、蔵書の充実は基礎的かつ重要な取組であると捉えています。第2次計画を作るにあたり、今後の蔵書数や購入冊数の目標値を示しました。単年度で評価するのではなく、将来を見据えながら目標値に近づけてまいります。
4	2	蔵書	アンケートによると、新鮮で幅広い資料があることが来館の大きな要望事項となっています。資料費の増額が利用しやすい図書館への近道かと思えます。	
7	3	蔵書	図書資料費の増額と長年にわたる継続が必要です。	
13	4	蔵書	P27 図書館アンケート結果設問7「望むこと」 →新しい本があることが、1番の魅力です。利用してみて、新しい本が増えていると、思いますが、まだまだ、少ないので、蔵書数を増やして欲しい。	
2	5	蔵書	新しい本は必要です。たくさん買ってください。半面、古い本は捨てられがちですが、私達高齢者の読みたい本は今の人たちが手にすることは少ないようです。明治、昭和の作者（主に文学）のものは残して欲しい。	古い本であっても、文学や牧之原市に関する郷土資料等は長い時間価値が損なわれるものではないと考えており、なるべく明治、昭和の作品も残していくよう努力します。
3	6	蔵書	ひとり暮らしになり、新聞等の購読を中止した方は、散歩がてら図書館に行きゆっくり新聞を読み読書できる時間を楽しみにしているという事でした。 以前そこに無い本を他所の図書館から取り寄せていただいたことがあります。ありがたかったです。開館を楽しみにしています。	図書館資料の媒体のひとつとして、新聞の収集及び提供も必要なことだと考えています。新聞タイトルを増やすことを視野に、拡充に努めていきます。また、限られた資料費を効率的に活用するため、館ごとにタイトルを分担して収集することを考えています。
8	7	蔵書	榛原図書館と「いこっと」の閲覧できる新聞数が違い過ぎる為、榛原図書館の新聞を充実させて欲しい。出来れば一般家庭での購読が少ない日経新聞を導入して頂きたい。 希望：静岡と日経という組み合わせでは如何でしょうか。	

6	8	蔵書	子供を連れて楽しめる図書館にして欲しいです。絵本や児童書を充実してくれると嬉しいです。	子どもの読書活動を推進するため、絵本や児童書をさらに充実させます。また、読み聞かせコーナーを設置しておはなし会を開催したり、子ども向けのイベントや特集展示も実施しています。ご家族で是非お楽しみください。
7	9	蔵書	蔵書数は12万冊以上を目標にしてほしいと思います。	蔵書増に向け表現を変更します。 【計画への反映：P19 「12万冊」から「12万冊以上」に変更】
7	10	蔵書	行政資料については「広報まきのはら」と「議会だより」は過去10年分くらいは図書館で閲覧可能にしたほうが良いと思います。	『広報まきのはら』や『議会だより』は牧之原市の地域資料にあたり、ご提案のように長期間閲覧できるように収集、保存していきます。 【計画への反映：P19 『広報まきのはら』等、電子化したものを長期間閲覧可能とします】
7	11	蔵書	施設の長寿化や移設の可能性が検討事項に入っているが、視聴覚資料や電子図書についても視野の片隅に入っていると良いと思います。	限られた財源で効率的に資料を整えていくため、また、交流の場としても図書館を活用していただきたいことからまずは紙媒体の資料拡充を優先しています。一方で、「読書バリアフリー」の視点等では視聴覚資料や電子書籍を活用する事例があることから、導入が可能であるか検討していきたいと考えています。 【計画への反映：P19 視聴覚資料や電子書籍の導入を検討します。】
1	12	職員	専任館長の配置を含む、専門知識のある人員を確保すること。	
4	13	職員	同じ規模の他館に比べて職員数が少ないので職員増と、サービスを統括する「図書館長」と事務をまとめる「係長」に専任職員を配置することを実現して欲しいです。	質の高い図書館サービスを提供していくために司書資格のある職員と、図書館サービスを統括する専任館長、事務をまとめる係長の配置は図書館の運営上重要なことだと捉えており、配置の実現を目指してまいります。
7	14	職員	牧之原市立図書館は有資格者の専任館長、牧之原市の直営で、十分な人数の司書資格保持者の正規職員が必要です。	

7	15	職員	図書館の現状の表に職員数も記入したほうがいいと思います。	令和5年現在の職員数は「図書館の概要」の頁に記載しています。令和6年度以降の職員数は来館者数等不確定な要素が大きいことから、具体的な人数については示しておりません。
2	16	施設	延床面積もいこっと、より少ない状況で、両者の本の行き来は可能なものの、やはり保存という面を考え、今の駐車場とつないだトランクルーム(?)みたいなものを作り書庫として運用して欲しい。	書庫は旧相良図書館及び榛原文化センター内の空き部屋を活用し確保しています。書庫増設のために新たに建築物を作ることは考えていませんが、収蔵能力強化のため、可能な方策を検討していきます。
10	17	施設	いろ葉の開館楽しみにしています。出来れば、ブックポストが移動図書館が回るところにもあるといいなと思います！	巡回する移動図書館車あるいは図書館に設置しているブックポストを利用いただきますようお願いいたします。また、図書館遠隔地利用者向けのさまざまなサービスについて検討していきます。
2	18	ボランティア	館員の中で、ボランティアの人がいるなら何がしかのお金を出してやって欲しい。今や無償のボランティアという考えは古い。	館内で活動する「図書館サポーター」に無償でのボランティアをお願いしています。「図書館サポーター」は単に労働力としてではなく、市民協働で図書館を作るひとつの形であると考えています。一方で、窓口での対応は専門性や責任を伴うことから、職員のみ対応しています。
5	19	ボランティア	読み聞かせ「本」確保するのに期間延長手続きだけで「本」持参し図書館行く事がありました。また、1か月借り続ける必要はないけれど読み聞かせ日に「本」確保が必要です。読み聞かせする為の「本」手続きボランティア負担少ない方法考えて頂けたらと思います。	図書館資料は読み聞かせボランティア、一般の市民、みなさんの共有財産となりますので、譲り合っただけだと思います。団体への貸出延長については電話でもご相談に応じますので、お気軽にお問い合わせください。
5	20	ボランティア	(読み聞かせボランティアが)打ち合わせする場所を決めるのに担当者が苦慮する事もあります。フリーミーティングする場所もあると活動しやすいと思います。	読み聞かせボランティアが打合せに使えるよう、読み聞かせ団体の方には旧相良図書館を一部開放しています。また、榛原文化センターについても空いている部屋の使用について相談に応じますので、お問い合わせください。

7	21	ボランティア	市民協働の図書館は近隣には少ないので、牧之原市立図書館の特色にしたらいと思います。	牧之原市は以前から読み聞かせボランティアが活発に活動されており、図書交流館開館を機にさらに市民協働が進んでいると捉えており、牧之原市立図書館の特色として記載をします。 【計画反映：P15 図書館の強み（評価できる点）に追記】
2	22	サービス	他県の図書館へ行った時、週1～2回、夜8時、9時までという制度がありました。働いている人にも利用できることはとても大切だと思います。何とか工面して回して欲しい。（逆に夜なら働けるとい人もいるかもしれません）	図書交流館開館時に夜間の開館時間を延ばしたところ、夕方以降にそれまで利用の少なかった中高生や仕事帰りの社会人の来館が見られるようになりました。文化の森図書館においても、夜間を含めた開館時間の延長を考えています。
4	23	サービス	今は利用していないが、榛原図書館が出来たら行きたいと思っている。 図書館から遠いし、農業をして忙しいので、貸し出し冊数をもっと多くしてもらえたら、文学書だけでなく、料理の本や孫の絵本も借りられるし助かる。	令和6年度から貸出冊数の限度を7冊から10冊に増やすよう検討しています。今まで以上に本を借りていただけたらと思います。
7	24	サービス	ひまわり号は要望によりステーションの変更の可能性を明記していることは、福祉や高齢化社会の中で図書館を利用するためにとっても良いと思います。「要望によりステーション増設」の可能性も明記しているともっと良いと思います。ひまわり号の巡回で学校を回る時、前日の校内放送で貸出カードの持参を呼び掛ける等学校と協力してほしいと思います。	移動図書館車がより効率的に巡回できるよう、利用実績や要望等を踏まえて柔軟に検討していきたいと考えています。一方で、それまで利用していた人が図書館サービスを受けられなくなることがないように配慮していきたいです。 また、市内のすべての小学校に移動図書館車が巡回しているため、子どもたちに多くの本が届けられるよう、学校ともコミュニケーションを取りながら連携を図ります。
7	25	サービス	移動図書館にもかかわるが、学校図書館との連携強化も進めてください。	
7	26	サービス	お茶コーナーを充実させるのはすごく良いと思います。地域の特性を考えてビジネスコーナーの中に農業関係の図書(特に経営)が必要だと思います。	地域の農業、商業を支援するためのコーナー設置を含めて資料の拡充を検討しています。小規模事業者の経営支援に関する資料も今まで以上に整えてまいります。

9	27	サービス	本を読む習慣がなく、読む時間を取らないので、本を読もうと思いません。しかし、ただ本を読むためだけのイベント、空間づくりが出来たら読む気になるのかもしれませんが	図書交流館では、今まで図書館を使っていなかった人で行きたくなる施設を目指し、建物や資料の他、講座やイベントについても拡充を進めました。今後は文化の森図書館との2館体制になるので、それぞれの特徴を活かしながらさらに「行きたくなる図書館」になるよう努めます。個別のイベント案につきましては、具体的に事業を検討する際の参考とさせていただきます。
9	28	サービス	調べる=図書館ということはないので、図書館を知るといふ図書館工場（向上）見学を通していろいろなジャンルの本をおいてあるんだぞと図書館の利用の仕方を知りたい。	
11	29	サービス	普段書籍に接することのない人達を呼び込むことが眼目かと思えます。例えば他の目的（喫茶、幼児の遊び場、社交クラブ）で訪れた場所が際立って個性的な内装であったり、知的好奇心を刺激する展示があったり、その先に本来の図書館としての設備が来客を迎える。毎週のテーマを決めて映写会を開き、より深く知る為の参考資料を紹介する。それに関しての意見交換会を催すなど、突飛もない意見でも出来るだけ多く出し、その中から実現可能な案は集約していく、などいかがでしょうか。	
13	30	サービス	p7「読書バリアフリー法」「拡充を進めます」→進捗状況は？	1次計画では「ユニバーサルデザインの推進」という視点で整備を進め、文化の森図書館改修工事においてトイレの段差解消、サイン表示変更、照明自動化等を図りました。また、図書館では大活字本、LLブック、さわる絵本（点字）等のコレクションがあり、本計画の中でさらに拡充を進めていきます。
4	31	その他	第2章の1図書館を取り巻く状況(1)社会環境の変化と図書館であげられた「ダイバーシティとインクルージョン」と「格差と貧困」は現代社会の大きな課題かと思いますが、その解決のために今後図書館の存在意義が大いに問われると思えます。アンケートでも割合が多い「図書館に来たことがない」方は情報弱者でもあり学習する機会に遠い方かと想像しています。図書館は「誰も取りこぼさない社会」へのセイフティネットと言われています。	「ダイバーシティとインクルージョン」と「格差と貧困」、ともに大きな社会課題ではありますが、その課題解決に図書館ができることを探りながら具体的事業に反映させていきたいと考えています。
4	32	その他	牧之原の文化・教育のさらなる発展のために、計画案の中から特に下記のことを重点課題にして頂けたらと思いました。 第4章 具体的な取り組みから (1)専門的サービスを保障する人人体制の確保 (2)図書館サービスを向上させるための職員研修を実施 (3)市民の「知りたい」に応える資料の収集・提供	取り上げていただいた3点の取り組みは図書館運営の根幹に係る重要なことだと捉えており、実現に向けて努めていきます。

7	33	その他	<p>中間見直し時の外部評価の方々はどのような方か(一般市民とか図書館学の専門家とか)市民に分かりやすくしたほうが良いのではないかと、と思います。</p> <p>また評価の結果も広報や図書館閲覧で市民も知ることができると良いと思います。</p>	<p>計画の中間見直しは、図書館法7条の3に基づき図書館協議会に諮ることを考えています。図書館協議会の会議及び議事録は公開していますので、引き続き市民への周知を行います。</p> <p>【計画への反映：P16 中間見直しは図書館協議会に諮ります】</p>
13	34	その他	<p>開館年より利用者が減少しているのが気になります。図書館は本を借りるためだけの場所ではない。利用する人と全く利用しない人に分かれてしまっているのでしょうか？</p>	<p>令和3年度は図書交流館が開館し、来館者が大きく増加しましたが、令和4年度は2割ほど減少しました。一方で榛原図書館は令和3年度に比べ4年度は2割来館者が増加しています。</p> <p>単年度の来館者数で評価するのではなく、中長期的に図書館を新たに利用する市民が増えていくよう、サービス提供に努めていきます。</p>
12	35	その他	<p>①ボランティアの連携、学習の機会など充実、団体の紹介や横のつながり ②まきのはら塾などの展示や紹介 ③学校図書、読書活動の推進</p> <p>特に上記の点について、工夫や強化をお願いしたいです。多くの市民が図書館の良さを知り、関心を持ってもらえるように期待します。</p>	<p>ご提案いただいた点はどれも牧之原市の特色でもあり、例年通り同じことを続けるだけでなく新たなアイデア等を取り入れながらより推進してまいります。</p>
13	36	その他	<p>「図書館のあゆみ」L7「地域の読書好きな住民に」「サービス指標でも最低クラス」 →「多くの市民に」でもいいのでは。 →第1次以降、最低クラスを脱出したのでしょうか</p>	<p>令和2年度以前の図書館は1日あたりの来館者数が平均で30~50人と、決して「多くの市民」が利用していたとは言い難い状況であったと認識しています。</p> <p>1次計画時に、静岡県内の図書館でのサービス指標が低いことを示しておりました。計画期間の5年間で拡充を進めてきましたが、サービス指標という点では現在も変わりません。</p> <p>一方で、サービス指標に表れない「居心地のよい空間・場の提供」や「企画展示、講座、イベントの開催」等についても拡充が進められており、複合的な評価が必要であると考えています。</p>
13	37	その他	<p>次期「牧之原市こども読書活動推進計画」 →ないのであれば、ぜひ、策定を進めて欲しい。</p>	<p>「市子ども読書活動推進計画」についてはまだ改訂されておりませんが、現代の子どもたちを取り巻く環境に即した新たな計画作りを進めています。</p>